大阪市立大学同窓会　●文系同窓会 有恒会　●理学部同窓会　●工学部同窓会　●医学部同窓会　●生活科学部同窓会　●看護系同窓会 よつば会　●創造都市研究科同窓会

大阪市立大学 同窓会報

第 10 号　発行：大阪市立大学同窓会　http://www.osaka-cu.net/

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3－138　大阪市立大学 同窓会事務局(田中記念館内)
TEL：06-6605-2113　E-mail：aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

特別インタビュー「荒川哲男新理事長兼学長に聞く」

「笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点」

大阪に根ざし、世界に貢献

学長就任前で業務引き継ぎ等でお忙しいところ、貴重な時間を割いていただき、今のお気持ちと抱負から始まり、本学の取り組むべき課題及び大阪府大との統合問題など、多岐にわたりお伺いした。

日　時：平成28年3月17日(木)
場　所：田中記念館・同窓会事務所会議室
●インタビュアー
羽原顕三（全学同窓会広報委員・有恒会副会長）
田中祐尾（全学同窓会広報委員・医学部同窓会理事）

――この度は大阪市立大学理事長兼学長ご就任誠におめでとうございます。最初に、ご就任に際してのお気持ちと抱負は如何ですか。

学長　大学が激動期で責任は大変重く、それだけやり甲斐を感じています。前学長は6年間にわたり見事にガバナンス改革を進められ、特に都市と共に歩む大学のイメージのもとに府立大学とともに新大学検討等に取り組まれました。私はこの問題を本格的に引き継ぐ覚悟でいます。また、自分のカラーも出していきたいと思っています。

――同窓生へのお披露目の意味でご経歴をお願いします。

学長　本学医学部1975年卒、第三内科入局、同81年大学院博士課程卒、カリフォルニア州立大留学後、医学部附属病院内視鏡センター部長、2000年第三内科教授に就任、同12年医学部長就任、同14年全国医学部長病院長会議会長などを歴任しました。

この間、国内外の学会活動は枚挙に暇なく、現在のメインテーマは内視鏡学や消化管病態生理学です。また、病院職員災害救援ボランティア「なにわすまいるず」代表や一般財団法人ものづくり医療コンソーシアム理事長なども務めています。

実は私が人生で医学部を選んだ動機は、高校時代に好きになった女性（今の家内です）の身内に医者が多かったためで、はじめは向上心もさほどなく、ゆめゆめ教授を目指すといったつもりはありませんでした。それがいつの間にか、附属病院副院長、そして医学部長を拝命し、どんどん臨床から遠ざかってしまいました。やっと臨床家に戻れると思った矢先、今回、複数の推薦人の方から理事長・学長への推薦の思いを受け、立候補するにあたり大いに悩んだのですが、最終的には、愛する母校のためにお役に立てればとの思いで決心をしました。

――それでは、当面取り組まれます案件などについてお話しいただけますか。

学長　まず基本的に、前任者西澤良記先生の示された6年間の基本方針重点三戦略（注）を踏襲して進めたいと思います。そのうえで私はやはり解りやすいスローガンを掲げたいです。そのスローガンは「笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点」です。

具体的には、総合大学としての叡智を結集し、健康寿命の延伸にむけて複合先端研究を展開しつつ、元全日本女子バレーボール監督の柳本氏と小型人工衛星「まいど1号」の打ち上げを企画した青木豊彦氏に学長特別顧問になって頂き、「スポーツ」と「ものづくり」で市民とフラットな関係で健康な街づくりをしていきたい。ここには衣食住が関係しますしICTも大いに関わってきます。各学部・研究科で知恵を絞って研究やイベントを形にしていきます。すでに、梅田のグランフロント大阪には、健康科学イノベーションセンターを開設しており、「疲労科学」が形になり、疲労度の測定や抗疲労食品も開発されています。また、あべのハルカス21Fに位置する医学部附属病院先端予防医療部附属クリニック「MedCity21」での人間ドックで市民の健康を守りつつ、いただいたサンプルの遺伝子解析などで得られたビッグデータで未病の段階での超早期診断に結びつけることを考えています。

「グローカル」はグローバルとローカルを融合させた造語ですが、公立大学である大阪市立大学の役割である、大阪市という都市に根ざしたローカルな貢献に主眼を置きつつ、それをモデルケースとして日本、世界に発信しグローバルに展開していきます。

（注）西澤前学長が打ち出された重点三戦略
①都市科学分野の研究促進シンクタンク機能の充実
②専門性の高い社会人の育成
③国際力の強化

――重点課題のなかでの国際力の強化について。

学長　（まだ学長になっていないので）医学部の話になりますが、海外の連携大学が8校から26校に増え、とくに香港中文大、メルボルン大など世界大学ランキング上位の大学が増えています。これに伴い、学生はインバウンド、アウトバウンドとも5倍に増加し、現在受け入れ派遣とも学生総数40名ずつとなっています。寄宿舎を増やしたが足りず、充実を目指しています。在関西4公立大学と4私立大学が連携しASEANとの医療連携などを目指しています。現在、本学の海外拠点については、上海、バンコク、インドネシアなど数カ所ありますが、長期滞在設備が課題です。

――府大との大学統合についてのお考えをいただけますか。

学長　新大学の検討についてはいかに魅力ある新公立大学にしていくかが喫緊の課題です。実現までは、それぞれのプレゼンスを高め、またお互いの得意分野をいかに連携させてシナジー効果を発揮させるか、大いに建設的な議論を重ねていきたいですね。先進医療と情報工学の医工連携など、平均寿命も健康寿命も短い大阪という地域はかえってモデルケースになりやすいので期待できます。食に関しても連携でメリットが出る要素が大きいです。

――昨年2月の「大阪における新公立大学の基本構想」をもとにお互いに話し合って、ある程度見通しのついた段階でいよいよ統合を迎えるということですか。

学長　おそらく新大学の具体的な絵姿がまとまるのは3年から5年先ではないでしょうか。その間にお互いのプレゼンスを高めることが大切です。

――橋下前市長が述べていた「二重行政の無駄を是正する統廃合」により、学部の一部縮小や教職員の減員があるのではという巷の不安があります。

学長　両大学で検討し、とりまとめた「新・公立大学」大阪モデルにある通り、両大学の有するリソースを最大限に活かすことにより、教育力、研究力及び地域貢献力の向上が図られ、新たな公立大学のモデルとして、大阪の発展を牽引していきたいと考えています。魅力ある新大学を創るためには、別途の初期投資など、財政基盤がしっかりしていないとダメだと思っています。

――最後に、大阪市大同窓会は全学ベースの組織で会報紙は5万部発行しています。同窓会への要望をお聞かせ下さい。

学長　お願いはいろいろあります。一つは卒業生で社会人として成功された方々から、何か大きな人生訓を講義していただく機会を作りたいので、ご協力をお願いしたい。出来れば、入学直後の1回生を対象にしたいです。彼らに夢と誇りを持たせ、大阪市立大学へ来て良かったと思わせたいです。

次にはやはり資金的なご支援をお願いしたいです。構内の食堂や部室といったアメニティ施設はかなり老朽化してきていますが、施設整備費という市からの補助は出ていないので直せません。私自身、部活を通じて社会人としての人間形成に役立った貴重な体験から、教育後援会とは別に同窓会からも特別なご支援をお願いしたい。

――寄付については、大学と同窓会ですみ分けをする必要がありますが…。

学長　今は「夢基金」へのご寄付をお願いしていますが、この度、同窓会が取り組まれた五代友厚銅像寄付金に比べて具体性に欠ける点は、今後大いに検討する必要があります。

――本日はご就任前のインタビューをご快諾頂き、どうも有り難うございました。

学長退任のご挨拶

大阪市立大学前理事長兼学長　**西澤良記**

平成22年4月、理事長兼学長に就任してから6年の任期を満了し、本年3月末をもって退任することになりました。この間、児玉大阪市立大学同窓会会長をはじめ、関係の皆様方のご協力とご支援をいただきましたことに心より御礼申し上げます。

この6年間、本学は重点三戦略を中心に据えて、様々な取り組みや大学改革を進めてきました。

まず、はじめに、大学は学術が第一であることから、「都市」をキーワードに、8学部10研究科全てにおいて都市の構造や自然、地形、防災、経済、産業、市民など様々な要素の全てを含んだ都市の学問としての「都市科学の推進」をし、この学問の成果を市民に還元するという意味で「シンクタンク機能の強化」を行ってきました。第二に、学生だけではなく社会人も共に学び、社会に貢献していくというヨーロッパ型を意識し、社会人大学院はもちろんのこと、学部の専門教育を含め「より高度の専門的社会人の育成」を目指してきました。第三に、国際社会で活躍する人材を育てるための語学力を駆使したコミュニケーション力を基本にリベラルアーツで培う「国際力の強化」にも取り組んできました。これらの取り組みがその礎になって、わたくしの任期中にはまだ途上であった教育改革のさらなる飛躍をし、本格的な市大型のグローバル人材の育成をお願いできたらと願っております。

これまでの6年間の大阪市立大学同窓会の皆様の多大なるご支援ご協力を承り心より感謝いたしております。また、今後は新大学に向けた取り組みが新たに始まると思いますが、今後の大学運営への今まで以上のご支援をいただきますようにお願い申し上げますとともに、同窓会の皆様方の今後ますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

大阪市立大学 夢基金 ご協力のお願い

大阪市立大学は平成18年に法人化したことを受け、大学運営の財源の１つとするため、外部資金獲得のための寄付募集を始めました。第１期を「はばたけ夢基金」として平成21年10月から平成26年９月までの期間とし、第２期を「夢基金」として平成26年10月からスタートさせました。

運営交付金が年々厳しい状況になっていく中で、大阪市立大学が魅力ある大学として、誇れる母校としてこれからも発展していくためには、基金を大学のグローバル化や教育活動、キャンパス整備に活用し成果を出していくことが必要です。

また、奨学金のように将来にわたって安定的に活用することを考えると、原資としてはさらなる積み上げが必要となります。さらに、本学の教育・研究設備及び環境も他大学に比べると、まだまだ整備を必要としているところが多くあります。

皆様の継続的なご支援をお願いいたします。

大阪府大との大学統合問題の動き

昨年9月、大学統合問題に関連し、市大の在学生を中心に2000余名による「現行の大学統合計画の白紙撤回を求める要望書」が大阪府及び市議会を始め大阪市大及び大阪府大学等に提出された。

この要望書に対し、昨年10月、本学では西澤良記学長名で「今後の大阪市立大学について」のメッセージが公表された。

その後、本年1月、大阪市議会において両大学の統合による新大学実現に向けた中期目標変更に係る議案が可決され、「新大学」を目指すことになり、西澤学長のコメントがホームページで公開された。

1）現行の大学統合計画の白紙撤回を求める要望書（平成27年9月）

両大学は「市井の精神に発した、自主独立・自由進取の気風あふれる建学の伝統」（市大・大学憲章）、「地域に信頼される知の拠点」（府大・基本理念）の精神をいまこそ思い起こしてください。私たちは、両大学が市民・府民の願いを尊重して大学統合計画を撤回し、これまで通り互いに独立した公立大学として、それぞれの伝統と特色を生かして発展することを望みます。（一部抜粋。以下省略）

2）学生、卒業生、保護者の皆様へ西澤学長のメッセージ「今後の大阪市立大学について」（平成27年10月）

大阪市立大学と大阪府立大学との統合につきましては、当初、平成28年度の大学統合をめざし、大阪府、大阪市及び両大学の四者で検討を進めてきましたが、平成25年度秋の市会において、統合関連議案が否決されました。その後、改めて、平成26年4月に知事と市長から「今後は、この間の大学統合に関する議論の状況を踏まえ、両大学で主体的に大阪における公立大学のあり方について検討するように」との指示がありました。両大学としては、さらなるグローバル人材のあり方を考えると、大阪の発展を牽引する「知」の拠点として、新大学の実現が望まれるものと考え、平成27年2月、「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を策定・公表したところです。本学としましては、2月に策定したこの「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）について、今後とも大阪府立大学と議論をし、グローバルキャンパスの開設など、さらなる連携強化を図っていきたいと考えています。

新大学の検討や大学の考え方、「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）につきましては、これまで折りに触れ、ホームページ等においても情報を公表していますが、「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）はまだ骨子の段階です。大阪市立大学と大阪府立大学との統合による新大学の実現につきましては、現在、大阪府議会と大阪市会で審議中であり、決定している状況ではありません。今後、両議会で統合関連議案が議決され、新大学の方向性が確定した段階で、在学生や保護者をはじめとしたステークホルダーの方々に説明する機会を設けさせていただき、皆さまからもご意見をいただきたいと考えています。

また併せて、統合議論の有無にかかわらず、本学においては、これまでにも増して教育改革を推進する計画を立てています。初年次での集中教育による英語力強化、初年次教育を効果的かつ集中的に行うためのクォーター制度の導入、留学（海外研修）の促進による国際力強化等、グローバル人材の育成に力を注ぎ、学生の皆さまに世界で活躍することをめざして学んでいただける環境を整えていきたいと考えていますので、皆さまもこれまで以上に高い目標を掲げ、視野を広げていただきたいと思います。

3）公立大学法人大阪市立大学に係わる中期目標の一部変更について―西澤学長のコメント（平成28年1月）

大阪府立大学と大阪市立大学との統合による新大学実現に向けた中期目標変更に係わる議案が昨年12月22日に大阪府議会で可決され、本年1月15日に大阪市会でも可決されました。これにより、新大学設立の方向性が明確になり、今後、その大学がより確実に発展していくための仕組みや環境について議論が進められていくこととなります。

また、あわせて、昨年2月に大阪府立大学とともに策定いたしました「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を踏まえ、今後、大阪の発展を牽引する「知の拠点」をめざし、魅力ある新大学の実現に向けてさらに議論を深めていきます。

なお、平成28年度及び新大学開学までの入試については、大阪市立大学として従来どおり実施していきます。また、入学から卒業までの教育カリキュラム、授与される学位についても影響を受けることはありません。

大阪市立大学創立135周年記念フォーラムを開催

「都市大阪の創生～未来への提言～」

平成27年12月18日（金）、本学の創立135周年記念フォーラム「都市大阪の創生～未来への提言～」（共催：日本経済新聞社）が、グランフロント大阪ナレッジシアターにおいて約350名の参加者を得て開催された。このフォーラムは、大阪市立大学が135周年を迎えるにあたって、その建学の理念に鑑み都市・大阪とともに発展してきた公立大学として、都市・大阪の未来に向けて、新たな視点を提供し、都市の発展に寄与する大学としての使命を明らかにすることを目的に行われた。

●基調講演Ⅰ
「ダントツの強みを磨け～企業と国の構造改革～」コマツ相談役坂根正弘氏（本学OB）

●基調講演Ⅱ
「大学の未来～21世紀、人生で3回大学に入る時代が来る～」東京大学教授吉見俊哉氏

●特別対談
大和ハウス工業の樋口武男会長と本学OGでシンクタンク・ソフィアバンク藤沢久美さんとの特別対談では、樋口会長の経営哲学がその人柄とともに引き出され、多くの方が話に引き込まれた。

●パネルディスカッション
「成熟と創生の交わるところ、都市大阪の未来へ」
▽パネリスト：長尾謙吉教授、渡辺恭良健康科学イノベーションセンター所長、中尾正喜特命教授、鈴木洋太郎教授、嘉名光市准教授
▽ファシリテーター：シンクタンク・ソフィアバンク代表藤沢久美氏

◇

長尾教授によるパネルディスカッションの趣旨説明は次の通り。

「地方創生」がブームになっています。大都市としての大阪の未来については、「成熟と創生の交わるところ」を生かせるかがポイントとなると考えています。大阪は第二次世界大戦中から「地盤沈下」や「経済低迷」などネガティブな文脈で語られることが多かった都市です。しかし、大都市圏として世界有数の規模を誇っており、都心部の経済活動の密度は注目すべきものがあります。大阪市立大学は都市型総合大学として「大学は都市とともに、都市は大学とともに」を理念に歩んできた大学です。大阪の現実的な都市課題を対象にしつつ、創生につながる研究について討議する。

（編集部）

大阪市立大学大学院生活科学研究科主催生活科学シンポジウム

超高齢社会における個人と地域の幸せとは何か

篠田美紀（生活科学部同窓会）

2016年2月13日（土）大阪国際会議場（グランキューブ大阪）にて、大阪市立大学生活科学研究科主催の〈生活科学シンポジウム〉「超高齢社会における個人と地域の幸せとは何か」が開催されました。本シンポジウムは大阪市立大学地域連携センターの協力と、大阪市、大阪市立大学生活科学部同窓会、大阪府社会福祉協議会、大阪市社会福祉協議会の後援を得て一般公開シンポジウムとして開催され、幅広い年代層を含む多くの市民の方々の参加の中で行われました。

所 道彦教授の総合司会のもと、西川禎一研究科長、宮野道雄大阪市立大学副学長による挨拶の後、前半部では、哲学者の内山 節氏、政策研究大学院大学教授の島崎謙治氏をお迎えし、両氏による講演、後半部では3名のゲストパネラーによるパネルディスカッションが執り行われました。

内山 節氏による「豊かさはどこに生まれるのか―都市と農山村の関係をとおして―」と題された講演では、近代的な社会システムの限界と、伝統的な暮らしから得られる再創造のヒントについてのお話がありました。

基調講演　内山節氏

基調講演　島崎謙治氏

島崎謙治氏による「近未来の社会と生活―医療を素材として」と題された講演では、日本の今後の人口構造の大変容と、それが医療、介護に直接的、間接的に及ぼす影響について、具体的にお示しいただきました。

驚愕の未来推計に圧倒される思いでしたが、本講演においても、～制度は日々創るものであり、私たちが未来に向けてどう創っていくのか？～が問いかけられました。

続くパネルディスカッションでは、岩間伸之教授のコーディネートのもと、太田佳美氏（佳豊庵）川人ゆかり氏（ローカルキャリアカフェ）西山 進氏（和歌山県企画部 地域振興局 過疎対策課長）が、「農山村地域で暮らすこと」について、各々方の活動を通じて見えることを発表していただき、その後、内山氏、島崎氏を交えた議論と質疑応答がありました。

太田氏からはフルーツを通しての多面的経営や海外との交流の取り組みについて、川人氏からは、都市部と地域を繋ぐ地域移住や地域の現状に則したキャリア教育、地域事業へのアドバイス活動の紹介、西山氏からは、高い高齢化率と過疎化に直面している和歌山県での自治体の取り組みの報告がありました。

前半の講演で問いかけられた「新たな創造」に向けて、既に歩み始めているパネラーの方々の個人、地域、自治体の具体的な活動に、大きな力をいただきました。

「幸せとは何か？」「幸せはどこにあるのか？」短い時間で盛りだくさんの大きなテーマでしたが、次に続く貴重な機会となりました。

「創造性のシンボル・メタセコイア」

都市研究プラザ・経営学研究科・教授　岡野 浩

「生きた化石」として親しまれ、四季折々の姿を見せるとともに、樹形がリズミカルである（和名：アケボノスギ、Redwood）。この木は、山之内遺跡の上に築かれた大阪市大の本部がある「杉本町」の名とも重なり、日本―中国―アメリカの研究者や地域住民の人々による結びつきを示すシンボルとして、いまもその雄姿を見せている。『冬のソナタ』のシンボルツリーとしても知られている。

本学理学部教授で附属植物園（交野市私市）園長でもあった三木 茂博士（1901～1974）は、新生代第三紀～第四紀のヌマスギやセコイアに分類されていた植物化石が別の種類であることを見出し、1941年に「メタセコイア」と命名する。

1945年に中国・四川省の磨刀渓（現在の湖北省）の住民に「神木」として祀られていた樹木が三木教授の命名した化石と同一であることを、戦前から交流のあった北京師範大学の胡先驌教授と中央大学（南京）の鄭万鈞教授が明らかにした。その知らせを胡教授から受けたカリフォルニア大学バークレー校のチェイニー教授（Ralph W. Chaney）は、戦争で混乱していた1948年に現地を訪問し、種子を採取し苗木を育て、三木教授に「日本で保存のための会を設立してくれれば苗木を送る」と伝える。

1950年、占領下の日本に100本の苗木がフリーパスで到着し、その前年には昭和天皇にも届けられる（1987年の歌会始には和歌にも詠まれる）。当時、杉本町キャンパスはGHQに接収されていたが、本学に設置された「メタセコイア保存会」は、挿し木により培養し、小・中学校などに配付した。

現在、交野市私市の附属植物園には、1950年にアメリカから贈られた100本のうちの1本が大木となっている。これに因んで名付けられた田中記念館のレストラン「メタセコイア」で、市大生御用達であった憩務所・夏炉（かろ）の「レモンライス」を食べながら鑑賞することが楽しみの一つになっている。埋め込まれた記憶とともに創造性の種がその辺りに潜んでいるかもしれない。

田中記念館のメタセコイアと大阪市立自然史博物館・塚腰 実氏と筆者による新パネル

五代友厚銅像完成記念式典

約500人が出席 盛大なイベントに

3月19日(土)五代友厚の銅像完成を記念し、除幕式典と併せて講演会及び記念パーティが行われた。

この式典にあたり、総合司会はフリーアナウンサーのさわともか氏(経平6卒)が担当した。

記念講演会

NHK連続テレビ小説「あさが来た」で時代考証を担当した原口泉氏(鹿児島大学名誉教授)を講師として招き、「五代友厚の志と功績」という演題で約1時間、五代の生涯を中心に講演が行われた。

銅像除幕式

記念講演会に引き続き、五代友厚銅像除幕式が五代スクエア(仮称)で行われた。除幕式には「あさが来た」で五代友厚役を演じた俳優のディーン・フジオカさんも駆けつけた。

除幕式の冒頭、児玉隆夫・同窓会会長は「2年前から商友会の中で五代像建立の話がもちあがり、全学同窓会で取り組むことになった。また、銅像の周辺を整備したので多くの教職員・学生が憩いの場として五代さんに親しみ、心に刻みこんでほしい」と挨拶する。この後、除幕が行われ五代像が姿を現した。

五代像を背に、西澤良記・理事長兼学長は、「五代は大阪の産業・商業の復興に努めた。また商業発展に対して人材を育てるために、大阪商業講習所を開いたことに敬意を表するとともに、先見の明を感じる」と祝辞を述べた。

そして、「おおきに五代さん」、ディーンさんは感謝の言葉から祝辞をはじめ、「今、五代さんが生きていたらどんなことを考えているだろうか」と思いを馳せたエピソードを明らかにした。

祝辞の途中には、しばらく五代像を見つめ「いやぁ、すごい偉大な人ですよね」と感慨にひたっていた。最後には、学生に向けて「五代さんのようなチャレンジ精神と勇気をもって世の中の荒波に飛び込み、自らの夢に向かって挑んでほしい」との言葉で結んだ。

記念パーティー

除幕式終了後、会場を1号館講堂に移して「五代友厚銅像完成記念パーティー」が行われた。商友会・岡本直之会長の挨拶に続いて、荒川哲男・次期理事長兼学長が乾杯の音頭をとり、集まった卒業生・教職員、在学生は約1時間半の間、食事や会話で盛り上がり、尾山基同窓会副会長による閉会の辞で散会した。

(丹下舜平・法学部二回生)

◇

(※)五代友厚記念特集号では、平成28年2月28日現在で掲載しましたが、それ以降の寄付者は次の通りです。

●10万円
村山 廣甫(法昭41卒)

●1万円
筋原 章博(商昭60卒)
寺井 まりな(商平25卒)
沖 誠一郎(経昭43卒)
景山 滋夫(文昭62卒)
筋原 祐子(生科昭60卒)

●現在の寄付金合計
4905万円(1014件)
(五代プロジェクト事務局)

平成27年度 卒業式・修了式

2033名が社会へ旅立つ

3月22日、大阪城ホールにて本学の平成27年度卒業式・修了式が挙行された。

今年度の本学の卒業生・修了生は、全体で2033名であった。式は学士、修士、博士、法務博士の各学位記授与から始まり、学業成績優秀賞授与、研究業績優秀賞授与と進められた。

続いて、今年度で学長の任を降りる西澤良記学長(当時)は挨拶の中で、現在進行中の府市大統合について、「府市大統合は大阪の公立大学のあり方を問うものであり、我が国が抱える問題に対して、公立大学として解決方法を模索する場を作りたい。これまで積み上げてきた歴史とブランドをスムーズに新大学に引き継ぎが出来る様にお願いしたい」と説明した。また先日、本学杉本キャンパスに銅像が建立された五代友厚についてふれ、「彼が様々な経験を通して身につけた国際人としての素養は、皆さんも大学での勉学や経験の中で得ているはずである。それらを活かして世界で活躍してほしい」と卒業生・修了生たちを激励した。

その後、来賓祝辞、合唱団フリーデ・混声合唱団・グリークラブによる式歌合唱をもって卒業式・修了式は終了した。

平成28年度 入学式

気持ち新た 2195名が入学

4月4日、本学の平成28年度入学式が挙行された。

今年度の本学の入学生は、学部入学生が1542名、編入学が10名、大学院入学生が626名、法科大学院入学生が17名、全体で2195名であった。

今年度から就任した荒川哲男学長は、「皆さんにもわかりやすいよう『笑顔あふれる知と健康のグローカル拠点』というスローガンを掲げ、大阪市立大学を現在進行中の府市大統合も含めた新しい公立大学にしていくために頑張っていく所存である。入学生の皆さんには、勉強だけでなくクラブ活動にも一生懸命励んで、実り多い大学生活にしてほしい」と話した。

その後は、来賓祝辞、祝電披露、入学生代表宣誓、本学「合唱団フリーデ」「混声合唱団」「グリークラブ」による式歌と続き、本学「交響楽団」による音楽演奏をもって終了した。

(北村健太・経済2回生)

大阪市立大学同窓会・有恒会 支部連絡先一覧(国内、海外)

国内・支部名	役職	氏名	学部卒年	連絡先(TEL)	メールアドレス
北海道支部	支部長	石黒 直文	経 昭29	011-859-2002	k-info@kaitaku.gr.jp
		矢橋 潤一郎	経 平6	011-611-3225	j.yabashi@hokkai-jp.com
東北支部	支部長	石橋 信勝	法 昭44	022-271-3830	nt.bashi@nifty.com
		早川 公康	生 平10	022-707-7073	km-hayakawa@sendai-u.ac.jp
東京有恒会	支部長	深尾 愛二郎	経 昭44	03-3711-5072	aijirou.fukao@socio-consultants.com
		浅野 徳一	経 平9	090-6533-4805	info@bizenyaki1091.net
北陸支部	支部長	誉田 豊	商 昭44	0762-22-4092	yu-konda.itc@nifty.com
		堀江 寿郎	商 昭52	076-224-3255	horys@smile.ocn.ne.jp
愛知支部	支部長	長尾 一彦	商 昭58	0565-88-1790	tg30242@toyoda-gosei.co.jp
		奥田 篤志	経 平1	052-700-4788	atsushi-okuda@kajima.com
三重支部	支部長	岡本 直之	商 昭45	0595-65-7300	okamoto.naoyuki@sanco.co.jp
		北村 純一	経 昭46	0595-65-9905	ripplet@k7.dion.ne.jp
京滋支部	支部長	塚本喜左衛門	経 昭46	075-341-1101	kizaemon@tsukaki.com
		藤野 正純	商 昭51	075-701-7778	fujino@mbox.kyoto-inet.or.jp
大阪北支部	支部長	小林 俊介	法 昭44	06-6440-2001	Koba@amigo.zaq.jp
		甘田 外成	経 昭40	06-6445-4303	sotonarikanda@m8.gyao.ne.jp
大阪南支部	支部長	金村 福寿	商 昭56	06-6752-8148	kanemura-shika@cup.ocn.ne.jp
		庄司 成彦	文 昭62	090-1223-5487	naruhiko_syouji@sonylife.co.jp
北摂支部	会長	鶴原 常雄	医 昭35	072-762-0794	tsuneo7620794@cap.ocn.ne.jp
		多田 省吾	法 昭45	072-750-1371	coin-sougou_kaikei@xvb.biglobe.ne.jp
神戸支部	支部長	松坂 隆廣	商 昭49	0798-54-5895	t.matsusaka@bando.co.jp
		藤田 隆大	商 平10	078-891-8000	inquire@fujitax.jp
宝塚支部	支部長	原木 文吉	商 昭43	090-6823-1487	bmast@jttk.zaq.ne.jp
奈良支部	支部長	高橋 敏朗	営修昭43	0742-43-6820	
		一柳 茂	商 昭49	0744-45-2405	ichiryu633@rainbow.plala.or.jp
和歌山支部	支部長	小佐田 昌計	法 昭43	0736-22-1631	
		岩橋 良晃	経 昭54	073-441-3321	yosimasum0001@pref.wakayama.lg.jp
岡山支部	(支部長)	梶谷 和幸	商 昭45	086-222-5309	
		小野 健太郎	商 平5	086-222-5788	onoken55@gmail.com
広島支部	支部長	井上 道	法 平3	082-228-9500	o.inoue@viola.ocn.ne.jp
		河合 直人	法 平11	082-249-4495	kawai@hiroso.jp
福山支部	支部長	塚本 義政	法 昭53	084-922-5167	tsuka0418@ec2.technowave.ne.jp
		塚本 光人	法 昭51	084-922-5167	
山口支部	支部長	村田 信宏	経 昭56	0832-83-0435	nobum2014@outlook.jp
		吉田 慈孝	理修平11	0836-31-6043	31344u@ube-ind.co.jp
山陰支部	支部長	西田 良平	理 昭41	0857-28-5257	roy_nishida_5257@yahoo.co.jp
香川支部	支部長	多田 孜	法 昭33	087-862-6884	平成28年3月29日 ご逝去
		八代田 次郎	経 昭37	087-831-1896	
徳島支部	支部長	大平 恒己	経 昭41	088-641-1515	taishi@ec3.technowave.ne.jp
		忠津 聡	工 平8	088-532-9101	tadatsu@alpha.ocn.ne.jp
愛媛支部	支部長	野田 松太郎	理博昭44	089-924-0613	nodas@ksn.biglobe.ne.jp
		浮田 泰昌	経 昭54	089-994-2069	ukitakaikei@dream.com
福岡支部	支部長	岩佐 昌暲	文博昭47	092-715-2554	iwasa.yanzuo@gmail.com
		棟居 秀信	商 昭52	092-553-2044	h-munesue@grace.ocn.ne.jp
鹿児島支部	会長	平田 宗興	医 昭46	099-260-0808	okihirata@gmail.com
	支部長	中村 俊久	商 昭47	099-258-0661	ntoshisakurajima01@ae.auone-net.jp
大分支部	支部長	日名子晃三郎	経 昭38	0977-25-2611	
		中野 洋介	商 平4	097-534-8272	yono606@yahoo.co.jp
沖縄支部	支部長	天願 勇	医 昭47	098-890-1213	dr.isamu@tougou.jp
		目加田 博史	商 昭53	090-8836-7922	mec@mekata.co.jp

海外・支部名	代表者氏名	学部卒年	連絡先(メールアドレス)
上海支部(上海友好会)	吉田 耕平	商 昭63	yoshida-kouhei@hanawa.co.jp
台湾支部	大寺 容典	経 平7	youshun777@hotmail.co.jp
バンコク支部	濱田 洋子	文 平2	yokoh51@hotmail.com
ジャカルタ支部	安藤 恭	生 平7	andokyo4292911@gmail.com
シンガポール支部	森田 宏	商 昭45	sky21sin@signet.com.sg
ニューヨーク支部	松井 みさき	経 平7	misaki.matsui.ny@gmail.com
シドニー支部	祝部 丈夫	商 昭39	jyhoori@iprimus.com.au

※転勤転居、海外赴任等異動の際は下記有恒会本部事務局か支部連絡先へご連絡ください。

有恒会本部事務局　〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138大阪市立大学内
Tel 06-6605-2087　Fax 06-6605-2088　Email ： yukokai@ado.osaka-cu.ac.jp

同窓会 TOPICS

2016年 有恒会支部代表者会議

平成28年3月5日(土)14時から学術情報総合センター10階会議室にて有恒会支部代表者会議を開催した。来賓として桐山副学長、児玉全学同窓会会長らが出席した。会議では各支部の活動状況が報告され、意見交換が行われた。

会議の席上、新しく発足した沖縄支部、発足検討中の姫路支部、静岡支部、東東京支部の紹介があった。

また、会議に先立ち、リニューアルした田中記念館と五代友厚銅像設置場所の見学会を行った。

また、会議終了後、学術情報総合センター10階研究者交流室にて懇親パーティを開催した。（編集部）

第二回 日中学生芸術交流大阪展

この度、上海大学、大阪府大、大阪市大の三大学交流展を大阪OCATで2月18日から三日間開催させて頂きました。当交流会は昨年に続き二回目を迎え大学関係者及び同窓会の皆様に多大なご支援を頂き感謝致します。

学生のグローバル化と日中友好におきましては2回目でもあり学生自身が自主的に行動するようになりました。課題はいろいろありますが、来年の上海展は大阪市大がリーダーとして新たなる挑戦と改革をしなければと考えております。具体的には①資金的な問題、②組織改革、③新しい企画、④広報、⑤学生の社会人としての育成、等があります。

青桃会OBはできるだけ表に出ずに、学生自身が考えて自習してくれる事を期待しています。OBの皆様にはまず協賛金へのご協力と新しい企画のアイデアがあればいただきたく宜しくお願いします。

（代表顧問　原田利明）

2015年度ホームカミングデー 生活科学部同窓会講演会
ワインの効用とおいしさの科学 &ワインテイスティング

2015年11月3日、学術情報総合センターにて山梨大学生命環境学部 ワイン科学研究センター准教授 久本雅嗣 氏(2004年・食品栄養科学専攻後期課程修了)に遠路お越しいただきました。

久本雅嗣氏は、ワインの「色」「香り」「味」に着目し、それに関わる成分の化学構造や性質、生成する要因、その他ワインや生体に及ぼす影響を明らかにすることで、ワインのおいしさや品質の向上を目指して日々、研究を進められているワインのプロフェッショナルです。

まず、現在の国内外のブドウやワインの生産現場や消費動向についてお話があり、関税やワイン投機と価格の関係などワイン業界の裏話や、近年、チリやスペイン、イタリア産も好まれるようになっていること、安価で美味しいワインを上手にチョイスするとよいとの耳よりなお話に聞き入りました。

ワインに加えミネラルウォーターまで山梨で発注、ワイングラスもご用意いただき、プロのテイスティングの手ほどきを受け、参加者はすっかり〝いい気分〟に和みました。

（生田英輔）

南部陽一郎先生の追悼シンポジウム

大阪市立大学大学院理学研究科教授　糸山 浩司

平成23年6月の、特別栄誉教授称号贈呈式後の記念撮影

本学特別栄誉教授でおられ、戦後の新生大阪市立大学理工学部着任後、渡米されるまで強力な理論物理学研究グループを率いておられた南部陽一郎先生は、2015年7月5日、94歳の生涯を終えられた。

先生の輝かしい業績等については既に理学研究科HP、本年度のNEWS LETTERに詳しく書かれているので、ここでは昨年9月29日、学術情報センターで行われた追悼シンポジウムの最後に(私見かもしれないが)話した事に触れておきたい。

現在日本人ノーベル賞受賞者は20人をこえるが、戦後10年以上経って生まれた私が小・中学生であった頃といえば、素粒子論、湯川秀樹・朝永振一郎両先生の受賞があるのみだった。メディアの多くは、この偉業を「フジヤマノトビウオ」と同様、戦前・戦中時に起きた奇跡という印象と共に捉えていた。明治維新後の急速な西洋化、戦後の驚くべき復興をもたらした日本人は同時に西洋の文化を素早く取り入れるマネの上手な民族という世界からの揶揄に晒されている事をその後何度も痛感させられたのは、私だけではあるまい。

南部先生は、西洋人もが無条件に賞賛する独創性をもって、我々が持たざるを得なかったこの劣等感の少なくとも一部を払拭して下さった。

南部ストリートのレリーフに刻まれている論語の一節「学びて思わざれば、則ち罔(くら)し、思いて学ばざれば、則ち殆(あやう)し」は、科学者の独創性と科学の客観性の調和を重んじた南部先生の一生を、言い表し妙である。謹んでご冥福をお祈りしたい。

会員ひろば

50年ぶりの母校訪問
―応物三八会同窓会―

平成27年11月16日～17日にかけて久しぶりの応用物理38年卒の同窓会を杉本キャンパスを中心に開催した。

午後1時、学術情報総合センター内のレストラン「野のはなハウス」に10名があつまり、恩師の人見先生にもご同席いただき、久しぶりの再会を喜んだ。まずは300億円もかけたといわれる大阪市立大学が誇る学術情報総合センターの威容に驚きながら、屋上ガーデンから360度展開する「民の賑わい」を眺望した。北には日本最高を誇るあべのハルカス、南には世界遺産を目指している中百舌鳥・古市古墳群、遙かには関西空港などが見渡せた。

5階以下は学術情報総合センターの中核をなす、蔵書230万冊超を誇る図書館である。学生時代あまり足を向けたことのない図書館の充実した書架と新しいメディアに驚かされた。自由に使える図書やIT機器、それを支える教育支援体制は世界に誇れる教育・研究環境であると、大阪市立大学の卒業生であることに誇りを感じた。

学術情報総合センター見学の後、場所を工学部同窓会室に移し、工学研究科電子情報学科長の金 大貴教授から卒業当時の応用物理学科から現在の電子情報学科への変遷や、現状のお話をお聞きしたのち、現在世界の先端を行く研究室を、中山教授や福田教授にご案内いただいた。

学術情報総合センターの屋上庭園にて

続いて夕闇迫る中、本番を予定している「宝塚セイレイ荘」に車を急がせた。宝塚には大学に来られなかった3名が先着しており、温泉もそこそこに大宴会となった。楽しい歓談はカラオケ大会を挟んで朝方まで続いた。

次の朝元気のあるものは早起きして近所の宝塚高原ゴルフクラブに玉ころがしに出かけたが、残念ながら前半戦を終了したところから雨が降り出し、雨に濡れてまでゴルフをするべきではないとあっさりあきらめ、喫茶店での懇談会に変更された。

楽しきかな、三八会。喜寿を超える人も出てきて、2年先、3年先となると、先立つ5名に合流するものも出るやも知れぬので、次回は来年にでも開催することを約束してお開きとなった。

（田守芳勝・工学部昭38卒）

お知らせとお願い

全学同窓会の電話番号・FAX及びメールアドレス等をお知らせします。尚、住所変更の連絡及びお問い合わせは出身先の学部同窓会までお願いします。

1）電話番号(変更)：
06-6605-2113
(FAX番号は従来と同じ06-6605-2088)

2）メールアドレス(新規)：
aalumni@ado.osaka-cu.ac.jp

3）学部同窓会電話番号：

●有恒会(文系学部同窓会)	06-6605-2087
●工学部同窓会	06-6607-8373
●医学部同窓会	06-6645-2936
●看護系同窓会(よつば会)	06-6645-3511
●理学部同窓会●生活科学部同窓会	
●創造都市研究科同窓会	06-6605-2113

会員投稿コーナー

大阪市立大学 生活科学部の歴史 1

岩堂美知子（家政学部昭和40年卒）

市大(いちだい)を思い浮かべる時、真っ先に浮かぶのは友の顔&顔。次に恩師、そして学舎や周囲の環境。学校の歴史について興味を持ったのは卒業してから。所属していた生活科学部(当時は家政学部)については同窓会誌・名簿を通じて学んだ。生活科学部の前身は1921年(大正10年)、大阪市西区の子女の教育のために設立された大阪市立西区高等実践女学校に遡る。この女学校は西区費で運営され、質実剛健・自治奉仕を校是として発展した。1924年(大正13年)に校名を大阪市立高等西華女学校と改称。昭和に入り女子教育が進展する中で保護者会や西区の努力・実業界からの援助(旧土佐藩の岩崎弥太郎氏の旧邸地を譲り受けるなど)を得て、当時としては珍しい鉄筋コンクリートの西長堀学舎が建設(1937年・昭和12年)。これが後の家政学部学舎第一号となった。現在70歳以上の卒業生が通学した旧学舎である(写真①)。

①当時の校舎

第二次世界大戦後、教育後援会と学校当局との昇格運動の成果で1947年に女学校に加えて被服・英語・育児科を有する大阪市立女子専門学校が女学校に新設され、翌年には生活科が増設。当時は激動の学制変革期、北村春吉校長や教育後援会の猛烈な昇格運動の結果、1949年(昭和24年)に4年制の男女共学の「家政学部」として大阪市立大学に統合されることになった。北村氏(写真②)はもと府立女子専門学校の教授で数学者である。新制大学でも教壇に立たれていて懐かしい。日本最長寿の元日本代表サッカー選手だったと聞く。

②北村氏

「家政学部」(のちの「生活科学部」)はこうして新しく大阪市が設立した総合大学の一学部として誕生した。一学科(家政学科)で食物学・被服学・住居学・児童学・社会福祉学の5専攻であった。この当時すでに40年余の歴史を持ち衣食住や都市生活環境に関し多くの研究業績をあげてきた「大阪市立生活科学研究所」(現・環境科学研究所)をはじめ、専攻の支柱となる分野の新進研究者を迎えて、家政学部は研究教育の充実をはかった。初代学部長は研究所々長だった茶珍俊夫氏(写真③)、そして浦上智子氏、村田希久氏はいずれも食物学科教員だが、その名は専攻を超えて鳴り響いていた。浦上氏はのちに定年退職後に1億円を大学に寄付、アジア女子留学生のための浦上奨学金を創設された。

③茶珍初代家政学部部長

一方1951年(昭和26年)に女子専門学校は役割を終えて閉校となった。大正時代から昭和初期、当時の女学校や専門学校を卒業された方々は大阪の教育界や官公庁の仕事、さらには地域の諸活動に力を注ぎ、率先して女性活躍の道を切り開いてこられた先達が少なくなかった。この諸先輩が培って来られたのが「西華同窓会」。1979年(昭和54年)、西華高等女学校時代の卒業生であり新旧二つの学校に勤務された被服学科教員の林田喜美子氏の尽力により、それまで「西華同窓会」に集っていた諸先輩たちの希望を担って新旧同窓会の合併が決まった。会員1万名余の「生活科学部同窓会」の誕生である。

◇編集後記◇

今年も夢と希望に満ちあふれたフレッシュマン達が市大の門をくぐった。

今後は初心の気持ちを忘れずに大学生活を大いにエンジョイしていただきたい。（編集人）